

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	総合政策学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 2011年度に「国際開発協力プログラム」を策定し、2012年度から実施する。	→「国際開発協力プログラム」の策定・実施の有無。	C	B			
2. 2012年度に「英語コース」のプログラムを策定し、2013年度から実施する。	→「英語コース」プログラムの策定・実施の有無。	C	C			
3. 春学期に学科単位で学部生対象のシンポジウムを一回実施し、秋学期は一般公開のシンポジウムを一回実施する。	→シンポジウム実施の有無。	A	B			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.3.1	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。 (説明) 教育目標の達成に向けて、通常の講義や演習だけでなく、国内外でのフィールドワーク等の多様な教育方法を取り入れ、実践からの学びへの動機づけとする学びのサイクルとしている。さらにリサーチ・フェアを実施し、学生の研究に対する主体的な取り組みを促している。
小項目6.3.2	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。 (説明) 開講科目のシラバスで講義計画、成績評価、参考文献などを記載し、学内ネットで公開され閲覧可能な状態となっている。定期的実施している学生に対する授業評価アンケートではシラバスと講義内容に沿った講義内容かどうかについての質問項目を設定している。
★小項目6.3.3	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 (説明) 評価方法・評価基準をシラバスに明示し、各教員がそれに沿って実施しているが、基準に関する十分な議論はなされていない。
小項目6.3.4	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 (検証の有無) <input type="checkbox"/> いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 必修科目を中心に定期試験の評価を継続的に統計処理し、入試や卒業後の進路等も合わせ専門委員会で統計分析を行い、教授会、教育課程にかかわる委員会等ではデータに基づく審議を行っている。
その他	国際開発協力プログラムと英語コースは専門部会を設置し、プログラム内容、コースについて、高校や大学、国際公務員経験者への聞き取り調査を行い、検討を行っている。

《評価指標データ》

- 履修者数規模別の授業科目数 (少人数・中人数・大人数)
- 少人数授業の授業形態の調査
- 規模別講義室・演習室使用状況
- マルチメディア教室の稼働率
- 遠隔授業を活用した授業の比率
- 各年次 Semester ごとの履修単位数制限の状況【基本的な指標データ】
- 履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
- 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
- 成績評価の分布が適正な科目 (平均点が70-75点) の比率
- GPA値 (全学、学部別、男女別など)
- 定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
- オープン授業 (授業公開) の全授業における割合
- 学生の授業評価の実施率 (全学、学部別)
- 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
- 在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
- 大学院生の論文件数 (査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
- 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
- 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数【基本的な指標データ】
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	実践性を重んじる教育姿勢を反映し、東北地方の震災で延べ60名を超える学生が2か月の間にボランティアとして被災地に支援に赴き、自主的に継続的支援活動を展開している。
小項目6.3.2	入試方式や卒業後の進路と成績評価について、経年変化を含め、各種の統計分析を行い、データに基づく教育課程改革を委員会で審議している。授業評価アンケートは各教員にフィードバックしている。
★小項目6.3.3	コンピュータ演習、イングリッシュコミュニケーションでは、評価項目、評価方法、評価基準の共通化が実施されている。
小項目6.3.4	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸ばさせるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	実習やフィールドワークでの実践と科目での学びを効果的に連携させるためにe-learningシステムの利用を促進し映像や教材共有を促進する。
小項目6.3.2	科目名とシラバスの整合性、講義計画に沿った実施は、履修モデル整備を行う過程で教育課程体系化と合わせ審議を行う。
★小項目6.3.3	科目による評価のばらつきを一定の範囲とするための目安や基準の提示を教育課程にかかわる専門委員会で議論しFD化を図る。
小項目6.3.4	必修科目を中心に、共通の評価指標を用いた統計分析を組織的かつ継続的に実施する。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価】(2)改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	リサーチ・フェアや学部ブログでのフィールドワークや各種調査、ボランティア活動の実施報告件数の把握を行う。
小項目6.3.2	履修体系化のための履修モデルを作成し公開する。
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	英語コース設置の検討、及び国際開発協力プログラムの検討の具体的進展を図る。

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	実習やフィールドワークでの成果報告を学内外でブログやリサーチ・フェアでの公開を促進し、e-learningを活用した経験値の蓄積を行う。
小項目6.3.2	履修モデル作成と公開
★小項目6.3.3	成績評価基準のシラバスでの明示を促進し、このシラバスでの記載をもとにカリキュラム検討委員会で評価の目安を作り、FDで認知を図る。
小項目6.3.4	統計データの組織的収集、分析体制を作り、教授会等での審議報告を定期的に行う。
その他	英語コースプログラムの検討にとどまらず、英語力促進のためラーニングアシスタント配置と英語教育のさらなる改革

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	国際開発協力プログラムおよび英語コースについての検討は、想定される受験生のいる高校やすでに類似したコースを設置した大学への聞き取りに基づき、社会的な要請や現在の教育課程への負荷に鑑み慎重に議論を進める。その上で実施可能案の策定にむけて引き続き努力する。
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

- 「現状の説明」6.3.2と6.3.3の記述では、実際にシラバスに沿った内容の授業が行なわれているのか、また適切な成績評価が行なわれているのか、十分に伝わってきません。授業評価アンケートの結果等から、根拠となるデータを取り出して証明することが望まれます。
- 国際開発教育プログラムや英語コースの設置は、カリキュラム・ポリシーにかかわるものなので、中項目6.1もしくは6.2で扱うほうが適切と思われます。

【学内委員】

- 「英語コース」の設置の目的、意義および目指すべき到達点等が明らかにされることが望まれます。
- リサーチ・フェアや学部ブログでのフィールドワークや各種調査、ボランティア活動の実施に力をそそがれていることは評価できます。
- 評価アンケートにおけるシラバスと講義内容に沿った講義内容かどうかについての質問項目の結果についての記述が望まれます。そのことによって、シラバスと授業内容の整合性の確認になります。
- いろいろな授業方法を検討され、教育成果の検証が行われています。教育課程や教育内容・方法の改善に結びつくことに期待します。また、課題も明示されていますので、その改善にも期待します。なお、大学基準協会の留意すべき事項を参照にされた説明を加えられれば、なお良いと思います。

【大学基準協会の、評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置（厳格な成績評価など）が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

○小項目6.3.2&6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」
達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

○小項目6.3.1～6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性
- ・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み
- ・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★英語コースについては、2011年度に学部としての今後の方向性、位置づけ見直しを行う予定であり、それに応じた目標設定等に修正して、基準協会の留意すべき事項を中心とした記述を追加します。